

STAGE 1-13

神戸工場(1号館・2号館)

新設/増設 2017(平成29)年閉鎖後建替え

竣工 DATA

竣工年月	1973(昭和48)年9月	1979(昭和54)年12月
設計者	松本設計	松本設計
施工者	村本建設	栗本建設
施設概要	敷地面積	7,234.62㎡
	延べ床面積	8,681.5㎡ / 4,311.36㎡
	構造	RC造3階建 / RC造6階建
	プラットホーム	開放型低床式 / 開放型低床式
	防熱方式	内防熱 / 内防熱
収容能力	総トン数	10,346t / 6,072.00t
	F級	10,346t / 5,058.37t
	C級	× / 1,013.63t
	C&F	× / ×
	ドライ	× / ×
	凍結	× / ×
	その他	
冷却設備	施工者	中須製作所 / 第一冷凍プラント
	冷凍機メーカー	三菱重工 / 三菱ヨーク
	主要冷凍機	高速多気筒冷凍機 / 高速多気筒冷凍機
	冷媒	R-22 / R-22
冷却方式	集中式・直接膨張式・ユニットクーラー	集中式・直接膨張式・ユニットクーラー
	冷却方式	集中式・直接膨張式・ユニットクーラー
その他設備	油圧直接式エレベーター2基	油圧間接式エレベーター3基



神戸工場1号棟(1973(昭和48)年)



神戸工場2号棟(1979(昭和54)年)



神戸工場に隣接する神戸市東部市場

などは横からの積み下ろしが多いからね。要は適材適所の設備を選択することだよ。

神戸はヘアピンコイルじゃなくてユニットクーラーなんです。

1970(昭和45)年から1982(昭和57)年までの間、新設工場ヘアピンコイルは導入されていないんだ(買収した一部工場を除く)。

それに子安もそうだったけど、神戸もC級、F級兼用(今で言うC&F)を備えていたからね。この時代、ヨコレイでもユニットクーラー方式を導入した事業所が増えているよね。

管理が大変だったでしょうね。防湿の面でも考慮が必要ですしね、F級からC級に変われば配管の氷も溶けるわけですから床面に水が落ちてスリッパやすくになり危険ですよ。

温度も上がって、湿度が上がるのでカビの発生問題も在りますよね。そうそう、苦労しましたよ。当時の配管防熱は発泡スチロールで、

その上にボール紙を巻き、更にもうその上に色のついたテープを巻いているだけだから、防湿なんて冷凍機業者は考えてなかったんだよ。

そのお陰でC級、F級兼用の部屋で水たまりができてフォークリフトが滑って防熱扉を随分壊したなあ。子安で採用したパレット積み保管方式を進めたイーザーパレットラックを全面的に採用したよね。簡単に言えば現在のラックなんだ

けど荷崩れが無くなったよね。

冷却設備はどうですか？

ここの冷却設備はもともと中須製作所の施工で、1号館には三菱重工の高速多気筒冷凍機が導入されていて、2号館には旧東京工場の新2号館から移設された三菱ヨークの高速多気筒冷凍機が導入されていたんだけど、平成5年に日新興業の施工によりコ

ベルコのスクリー冷却機に入替をおこなったんだ。その際、山川工場で最初に導入した電子膨張弁も入れているんだよね。

電子膨張弁は液バックが発生しづらいから管理が楽なんだ。1993(平成5)年はヨコレイの電子膨張弁初導入の年で、これ以降、電子膨張弁が主流となったよ。電子膨張弁の詳しいことは、山川工場のところで説明するね。

阪神・淡路大震災の概要

創業からわずか5年後の1954(昭和29)年、当社唯一の冷蔵倉庫であった横浜工場の全焼に続く試練とも言える出来事が1995(平成7)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災である。この震災による被害総額は1兆4千億円超と言われ、復旧には2年4ヶ月を要し、25年を過ぎた現在でもその傷跡は随所に残っている。

当社の主な被害は、庫内荷物の全面的な荷崩れ、倉庫棟と荷捌き棟のエキスパンション部分の剥離、そして周辺道路の液状化、護岸崩落、断水・停電などが、幸い社員は全員無事であった。

その後1か月にわたって全国の事業所から延べ800人という応援が派遣され、文字通りヨコレイの総力を挙げて復旧作業に当たり、震災から1か月余りという、被災の状況からすれば驚異的なスピードで荷物の保全、整理を完了させた。

阪神・淡路大震災による被害総額は約1兆400億円。震災発生から2年後の1997(平成9)年5月19日に「神戸港復興宣言」が発表された。

◇被害状況

- ・発生年月日:平成7年1月17日5時46分
- ・震源地:淡路島北部(北緯34度36分、東経135度02分)
- ・震源の深さ:16km
- ・地震の規模:M7.3



- ・最大震度:震度7
- ・被害状況:死者6,434人、負傷者43,792人
- ・住宅被害約52万棟(全半壊・損傷・火災)

◇港湾施設被害状況

- ・被災延長:外郭施設14,829m、岸壁173バース、物揚場11,534m
- ・被害総額:1兆400億円
- ・復旧期間:2年4ヶ月

◇港湾施設の被害の波及状況

- ・港湾施設が事実上閉鎖されたため、国内各種産業の広範囲にわたる生産拠頭に大きな影響を与えた
- 自動車や電器産業などへの部品供給が途絶えたことによる操業停止
- ・海外の生産拠点への部品供給もストップ。
- ・その他、世界貿易にも混乱を与えた。

阪神地区への初進出!! 港町 神戸に

阪神地区への当社初の事業所ですね、ここも低床式プラットホームですが神戸も市場型と港湾型のミックスですか？

いや、確かに神戸市東部市場に隣接していたけど、この地区はポートアイランド、六甲アイランド、そして摩耶埠頭などと並ぶ大きな貨物船が接岸する埠頭だったので、少し特殊な性格の事業所なんだ。

当時はまだ物流のスタイルが確定しておらず、コンテナ化は進んでいたけど今ほどじゃ無かったため小型保冷車や大型の平ボディートラック

も多く、それで低床式の方が荷下ろしの効率が良かったんだよ。

低床式のプラットホームは敷地全てを作業場として使えるからね。ここは雨天時に荷物を風雨から守るため、大型の庇を設けていて、さらに横のサイドも囲って風雨を避けて作業していたんだ。

この発想は今の密閉式プラットホームに繋がるよね。効率面から見て低床式が全て古い設備とはいえない切れないよね。現在でも前浜で揚がった鮮魚の凍結がメインの産地事業所などでも現役だよ。

特に大型の平ボディートラック

column モノリフト

初期のタイプの垂直搬送機と思われる。

設計会社と同じであった旧福岡工場にも設置されていたが、1969(昭和44)年完成した子安工場に「当社初のリフターも装備した」となっていて、恐らく同じものでないかと推測される。

まだ本格的な垂直搬送機が開発されていなかった時代(日本初のパレット垂直搬送機の発売は昭和50年となっている)で、いかに新しい物を導入するのが好きなのかが分かるが、残念ながら扉の開け閉めや昇降などの操作性が悪く、導入してからすぐに使わなくなって撤去した。

